

施設類型別コスト分析について

1. 分析趣旨

同種の施設類型別に個々の施設にかかる経費であるトータルコスト（管理運営費+減価償却費等）と利用状況を示す稼働率を用いて、コスト、稼働状況からみた相対的な比較分析を行い、課題を抽出し、施設類型別の基本方針や今後の公共施設アセットマネジメントに資するものとします。

2. 分析方針

同種施設において1㎡あたりの管理運営費から施設を維持するために市民がどれだけ負担をしているかを分析することによって、負担額の値が大きい施設は「コスト改善」の課題が、また稼働状況と組み合わせることで、稼働率が低いにもかかわらず負担額が大きな施設は、「コスト、利用状況両面からの課題」があると整理できます。こうした分析結果は、対象施設の維持管理の方向性を検討する一つの材料になると考えます。

3. 分析項目

●**管理運営費+減価償却費（トータルコスト）**：調査票に記載のコスト金額の合計（現金支出項目）、各施設の建築費総額を公会計上の耐用年数で除した金額を上乗せした金額。各施設の維持運営に要している現金支出コストに公共施設の経年に伴う毎年の価値の減少分を上乗せしたものでトータルコストを示します。年度で負担しているコストと各施設の稼働状況を比較することで、各施設単位や施設類型別での施設の効率的な維持・運営が行われているかを分析することができます。

●**市負担額**：管理運営費から収入（使用料等）を引いた金額。施設での収入（使用料等）の要素も踏まえた施設コストを示したものです。

●**1㎡あたり管理運営費**：管理運営費を延べ床面積で除した金額。各施設1㎡あたりでの状況を示したものであり、各施設や施設類型別で比較することで、また他の指標と組み合わせることで、各施設の今後の施設のあり方を検討するための目安とすることができます。

●**市民1人あたり市負担額**：市負担額を市民人口で除した金額。市民1人あたりが各施設の維持運営に要している金額を示したものであり、各施設や施設類型別で比較することで、また他の指標と組み合わせることで、各施設の今後の施設のあり方を検討するための目安とすることができます。

●**受益者負担比率**：収入(使用料等)÷管理運営費。市民が直接、施設を維持するためにどれだけの負担をしているかを分析することができます。

●**稼働率**：利用枠数÷利用可能枠数。各施設の利用状況の繁閑を示したものであり、利用実態を分析することができます。